

世界農業遺産・日本農業遺産の目的

人々が農業、林業、漁業を営む中で、自然と調和しながら発展させてきた地域特有の伝統的な知恵や技術（例えば資源の循環利用や土地利用）と、食や祭礼等の文化、さらにそれらの営みの中で育まれた生態系、景観等のつながりを「農林水産業システム」として守り、次の世代に受け継いでいくことを目的にしています。

世界農業遺産の認定基準

1. 食料および生計の保障

地域の農林水産業システムによって食料が生産され、
農林水産業を営む人々が生計を立てていること

2. 農業生物多様性

地域の農林水産業システムによって、多様な生物が育まれていること

3. 地域の伝統的な知識システム

農林水産業を営む上での知識、技術などが維持されていること

4. 文化、価値観および社会組織

農林水産業に伴う文化や風土、社会の組織などが維持されていること

5. ランドスケープおよびシースケープの特徴

長年にわたる人と自然の相互作用によりつくられる、すぐれた景観を有すること

農業遺産は社会や環境の
変化に合わせて進化してい
くから、「生きている遺産」
ともいわれているよ。



日本農業遺産の認定基準

世界農業遺産の5つの認定基準に、自然災害、高齢化、過疎など
日本が抱える問題の解決につながる3つの基準が加わります。

6. 変化に対するレジリエンス（回復力、復元力）

自然災害などの環境の変化に対して、高い「回復力」「復元力」があること

7. 多様な主体の参画

地域住民だけでなく、様々な人々の参加によって独創的な農林水産業システムを受け継いでいること

8. 6次産業化の推進

地域ぐるみの6次産業化などで地域を活性化させ、農林水産業システムの保全を図っていること

6次産業化って
何だろう？



【6次産業化とは】

生産物の価値を上げるため、農林漁業者等が、農畜産物、水産物の生産（第1次産業）だけでなく
食品加工（第2次産業）、流通・販売（第3次産業）にも取り組み、それによって農林水産業を活性化させ、
地域の経済を豊かにしていこうというものです。1次×2次×3次＝6次から名付けられました。

神奈川県伊勢原市の例



酪農



加工



地元野菜を使ったジェラート



地元野菜

https://www.alic.go.jp/koho/kikaku03_000651.html

酪農家と地元農家が手を組み6次産業化を進めています。

ジェラートは牧場の売店で販売され酪農体験も行っています。

1章 九州地方

① 九州地方の地理的特徴と代表的な農林水産業 「筑紫平野」「阿蘇山のカルデラ」「宮崎平野」「シラス台地」「南西諸島」	5
② 阿蘇のカルデラの農業例 阿蘇の草原の維持と持続的農業	6
③ 宮崎平野の農業例 宮崎の太陽と風が育む「干し野菜」と露地畑作の高度利用システム	8
④ 九州地方の農業遺産	10

2章 中国・四国地方

① 中国・四国地方の地理的特徴と代表的な農林水産業 「山陰」「瀬戸内」「南四国」	11
② 山陰の農業例 たたら製鉄に由来する奥出雲の資源循環型農業	12
③ 瀬戸内の農業例 愛媛・南予の柑橘農業システム	14
④ 中国・四国地方の農業遺産	16

3章 近畿地方

① 近畿地方の地理的特徴と代表的な農林水産業 「北部」「中央部」「南部」	17
② 中央部の農業例 南あわじにおける水稲・たまねぎ・畜産の生産循環システム	18
③ 南部の農業例 急峻な地形と日本有数の多雨が生み出す尾鷲ヒノキ林業	20
④ 近畿地方の農業遺産	22

4章 中部地方

① 中部地方の地理的特徴と代表的な農林水産業 「北陸」「中央高地」「東海」	23
② 北陸の農業例 雪の恵みを活かした稲作・養鯉システム	24
③ 中央高地の農業例 峡東地域の扇状地に適応した 果樹農業システム	26
④ 中部地方の農業遺産	28

どんな地域的な課題があるかな？
人々はどのように克服しながら
農業を営んできたかな？
どこが持続可能なシステムに
なっているだろう？



5章 関東地方

① 関東地方の地理的特徴と代表的な農林水産業 「内陸部」「南部沿岸」	29
② 内陸部の農業例 大都市近郊に今も息づく武蔵野の落ち葉堆肥農法	30
③ 関東地方の農業遺産	32

6章 東北地方

① 東北地方の地理的特徴と代表的な農林水産業 「太平洋側」「日本海側」	33
② 太平洋側（平野）の農業例 持続可能な水田農業を支える「大崎耕土」の伝統的水管理システム	34
③ 東北地方の農業遺産	36

巻末付録 クイズの答え	37
-------------	----

1章 九州地方

(福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県)

1 九州地方の地理的特徴と代表的な農林水産業

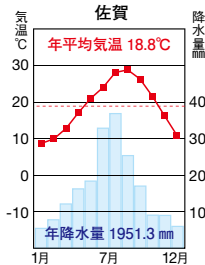
九州地方は近海を流れる暖流のため、冬でも比較的温暖で梅雨から台風の多い9月頃までの時期にかけては雨が多く降ります。また、火山活動に由来する地形も多く、人々の暮らしも火山の影響や恩恵を受ける特徴があります。

筑紫平野

九州有数の穀物の産地。平均気温が17.0℃(福岡市)と温暖なため、米の収穫後に違う作物を栽培する「二毛作」も盛んです。

Q1 二毛作で栽培される作物は？

- ①大麦・小麦 ②とうもろこし ③大豆

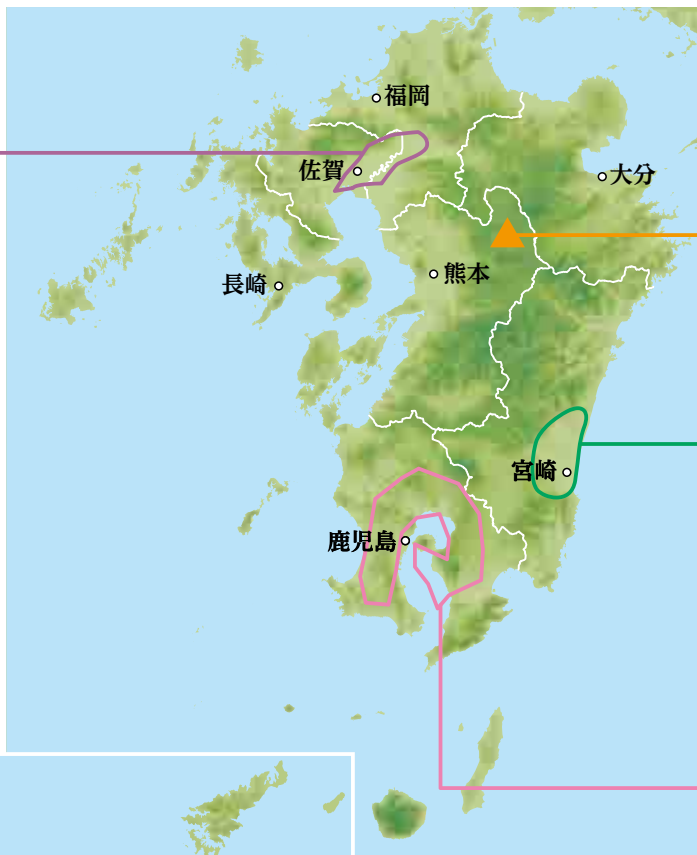
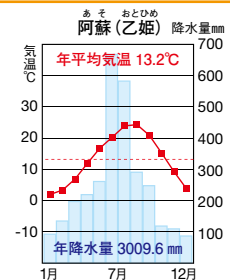


阿蘇山のカルデラ P.6

平均気温13.0℃と冷涼で、比較的雨量が多いのが特徴です。カルデラ内の平地では米づくりやトマト、いちごの生産が盛ん。元々は火山の影響でできたやせた大地です。

Q2 人々が農業に利用してきたものはなんでしょう？

- ①大木 ②草 ③火山灰

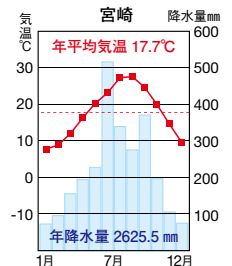


宮崎平野 P.8

1年を通して温暖で日照時間が長いのが特徴です。特に冬に快晴が多く乾燥した西風が吹きます。

Q3 この気候を利用してつくられる特産品は？

- ①干しわかめ ②干しぶどう ③干し大根

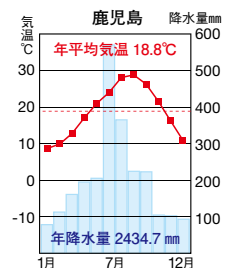


シラス台地

火山灰や軽石など火山噴出物が堆積してできた台地です。水はけが良過ぎるため、水が大量に必要な作物は適しません。

Q4 適していない作物は？

- ①さつまいも ②稲 ③茶

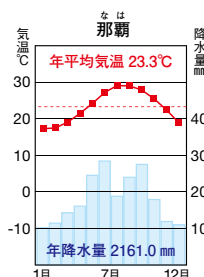


南西諸島

1年を通して温暖です。年間降水量は多いですが、サンゴ礁が発達してできた島なので、水が地中にしみこみやすく、長大な河川もないことから水に恵まれません。

Q5 日照りや台風に近いサトウキビ以外に花の生産が盛ん。代表的な花は？

- ①ひまわり ②チューリップ ③菊



それぞれの地域で
どんな農業が
行われているのか、
想像してみよう！



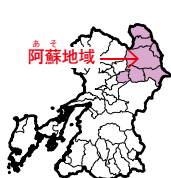
2 阿蘇のカルデラの農業例

熊本県阿蘇地域

世界農業遺産

「阿蘇の草原の維持と持続的農業」

人々が、暮らしや農畜産業のために「草」を利用してきたことで維持されてきた景観と、多様な動植物が生息する豊かな草原の環境がおよそ1000年以上にわたって守られてきました。



熊本県阿蘇地域

(認定地／阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、西原村、南阿蘇村)

日本最大級の草原 阿蘇

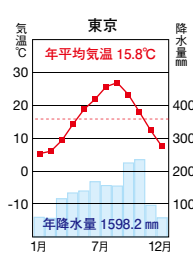
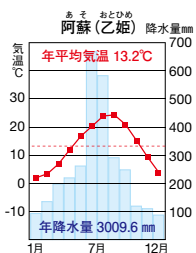


◆阿蘇地域の地形と気候

火山活動によってできた大きなくぼ地である“カルデラ”地形で、外輪山上には草原が広がっています。400m以上と標高が高く、気候は年平均気温が13.2℃と周辺地域より比較的冷涼です。広大な草原には全国平均の約2倍を超える雨が降ります。草原をおおう野草が雨水の流れを穏やかにし、火山性土壌の大地に大量の水を染み込ませていくため、地下水が豊富です。



まきの利用と農耕への牛の利用は昭和初期頃まで



◆外輪山上に広がる草原

降水量が年平均3000mm以上と湿潤であるため、放っておけば雑木林が広がる地域ですが、人々が農業を中心とした営みの中で、野焼きなど草原を管理してきたことで、草原の状態が維持されてきました。そして、広くなだらかな地形が牛や馬の生産に適していることから畜産が盛んになりました。

◆阿蘇の農業の特徴 草を利用することにより草原が守られてきた



草を刈り、牛の飼料にする

およそ1000年前の平安時代、都に進上する優れた馬を育てる場として、また耕作の労働力としての牛を育てる場として、草原が広がっていました。広大な草原に牛や馬を放牧したのです。明治時代に入ると西欧の文化が広がり、日本でも肉食の習慣が定着していきました。その結果、農耕用の役牛から肉用にシフトしたことで家畜の牛の数も増加していき、草原は、放牧や牛の飼料用の草を得る場として、さらに重要になりました。また、草は、栄養の乏しい火山灰土壌や高冷地という厳しい条件の下で田畑の肥料にするなど、農耕に結びついてきました。この人々の営みによって、草原が守られてきました。



草を利用することで維持するってどういうことかな？

◆「草原の維持」キーワードは「放牧」「採草」「野焼き」

阿蘇では、人が草原を利用し、管理することで日本最大級の草原を維持してきました。牛や馬を放つ「放牧」、草を刈る「採草」そして草を焼く「野焼き」が行われています。

1. 放牧

放牧は、春から初冬にかけて行われます。草原に放たれた牛は1日に40～50kgの草を食べながら、3～6kmほど移動して暮らし、成長します。

豆知識

阿蘇の草原に放牧されている“あか牛”は、褐毛和種という和牛の一種で、古く朝鮮半島から日本に入り、品種改良が繰り返され今の品種になったといわれています。熊本が生産量日本一を誇る肉牛です。



あか牛の放牧